

平成23年度

病害虫発生予察特殊報(第2号)

平成24年2月1日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：オオランヒメゾウムシ
Orchidophilus aterrimus (Waterhouse)

作物名：ラン類

1 発生経過

- 平成23年11月7日、県内のラン生産園に横浜植物防疫所がラン苗の輸出検査に出向いた際、生産管理者から園内に発生しているゾウムシについて照会を受け、ゾウムシ標本の提供を受けた。
- 横浜植物防疫所での同定の結果、オオランヒメゾウムシと同定された。
- 11月29日に横浜植物防疫所及び農業技術センター職員が現地を調査したところ、成虫と成虫による葉の食害痕、及び偽球茎（バルブ）内を食害する幼虫を確認した。
- 当該園の被害は約1%であり、2年ほど前から被害が多くなった。
- オオランヒメゾウムシの被害は、本県では初めての確認である。

2 形態及び生態

(1) 形態

成虫は、体長が雄3.5～5.7mm、雌3.1～5.0mm、全体黒褐色、口吻は湾曲する。各上翅に10列の点刻列がある。幼虫は無脚で白～黄白色、頭部はふ化後は明褐色だが、成長すると暗褐色になる。老熟幼虫の体長は8～9mm。蛹は乳白色。卵は長径約0.8mm、短径約0.5mmの楕円形で白色。

(2) 生態

海外の文献では、成虫は、偽球茎、未展開葉、葉腋の中に産卵することが報告されている。実験室内では、卵期は11日、幼虫期は3～5ヶ月で5～6齢を経過する。通常は偽球茎内で蛹化し、蛹化期間は16日。卵から羽化まで約5ヶ月かかる。野外で採集した成虫の寿命は約9ヶ月。

(3) 分布

主に東南アジアに広く分布し、シンガポール、フィリピン、タイ、インドネシア等から記録されている。また、ハワイ、イギリスにおいても被害の報告がある。

日本国内においては、千葉県、沖縄県等で確認されている。

3 被害及び寄主植物

(1) 被害

幼虫と成虫が、生長点に近い花と柔らかい葉、偽球茎及び露出した根部を食害する。雌成虫が偽球茎等に産卵した場合、幼虫が偽球茎内部を食害し、羽化した成虫が約2～3mmの穴を開けて外部へ脱出する。食害された偽球茎は、生長が止まり開花しない、または、枯死する場合もある。

(2) 寄主植物

温室や野外のランを食害することが知られている。今回、食害を確認したのは、デンドロビウム、パフィオペディラム、ファレノプシス、シンビジウム、バンダ、バルボフィラム、リパリス、エリアであった。その他、ナリヤラン、シラン、カトレア、コウトウシラン、カンラン、*Thecostele alata*への寄生が報告されている。

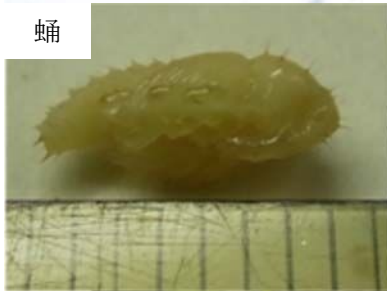
4 防除対策

- (1) 成虫の捕殺及び寄生株の除去。
- (2) 苗の移動時は、植物体を良く観察し、本種の寄生の有無に注意する。
- (3) 花き類・観葉植物におけるオオランヒメゾウムシの登録薬剤はない。

成虫



蛹



幼虫（リパリスの偽球茎内に寄生）



偽球茎の成虫脱出口



葉の基部に潜む成虫



神奈川県農業技術センター 病虫害防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢 1617

TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411

テレホンサービス 0463-58-6612

<http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>